

トーキングロード
嘶家人生 山あり、谷あり

〔第14回〕

長屋の花見

+ 文 林家木りん Text by Kirin Hayashiya +

芸事の世界は1日でも早く入門した人が先輩です。たとえそれが歳がずつと下だろうが、もしくは先に後輩が昇進して階級が上になっても先輩は先輩。

僕の先輩なんかは同じ日に履歴書を落語協会に提出しその履歴書が早いかな遅いかなで上下が決まってしまうのです！

「同期というくくりでいいじゃないか！」と思います、江戸落語になぜか同期という概念がないのです。あくまでも上か下かなのです！

先輩になると後輩たちが言うことを基本的には聞いてくれるので、寄席での前座働きなどが少し楽になります！でも先輩だからって指図してわがまま言っているのは後輩たちも離れていってしまいますので、ご飯をご馳走したりいたします。

ここでのお金払いは本当に大事でこれをケチると評判は悪くなる一方。ですので先輩は常に見栄を張らなくてはなりません！

また偶然、飲食店などで後輩に行くわしたら後輩の分の会計を済ませてあ

げたりもいたします。

僕も先輩方からやっていただいているので後輩に返しますが、たまに腹立つ時もあるのです！

それは先日のこと、女の子とデート中の後輩に会ってしまい僕が会計を済ませたのですが、これはなんか納得いかなかったです（笑）。

兎にも角にも僕たち落語家は見栄を張る商売。落語にもこういうお嘶があります。

ある日、長屋の住人に大家さんから呼び出しがかり、皆家賃なんて払ってないのできつとその催促だと思いきや長屋の住人は戦々恐々としながら大家さんのところへ。

すると意外なことに大家さんからの呼び出しの理由は花見に行こうとの誘いでした。

大家さんは「うちの長屋は世間から貧乏長屋、貧乏長屋と呼ばれて景気が悪くつてしかたがない。今日はみんなで花見に行って陽気に騒いでひとつ貧乏神を追い出そうじゃないか！

もちろん酒や肴はこちらで用意したから安心してくれ。このとおり一升瓶

にこの重箱の中にはカマボコと卵焼きが入っている。なあに心配するな、みんなわたしのおごりだよ」。

大家の提案に長屋の住人は大喜び、さっそく上野の山へ向かうことになった。

上野の山に着いてみんなでさあ盛り上がる、というところで大家の種明かし。それは一升瓶の中身はお酒ではなく番茶を煮出して薄めたもの。カマボコは大根の漬物、そして卵焼きの正体は黄色いたくあんでした！

さあこのあと長屋の住人はどうなるか？

「長屋の花見」ぜひお聴きください！



profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。
2009年林家木久扇に入門
2013年二ツ目昇進。
身長192cmと、落語協会一の高身長！
趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。
空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。
初の著書『師匠!』発売中